

巻頭言

キャリアセンターニュースに 寄せて

岡野 幸雄

教学担当理事・副学長



岡野理事

平成23年4月から「大学設置基準」が改正されて、「大学は教育上の目的に応じて、学生の社会的及び職業的自立を図る能力を培うことができるように、大学内の組織間の有機的な連携を図り、正課の内外を通じて適切な体制を整えるもの」とされました。これを受けて、本学ではこれまでの「就職支援室」を発展させて、キャリアセンターを設置しました。新しいキャリアセンターでは、これまでの就職支援業務に加えてキャリア形成支援に繋がるキャリア教育もその大きな目的としています。岐阜大学のキャリア教育は、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、キャリアプランニング能力や基盤的能力を通して、キャリア発達を促す教育」と言えます。

昨年の11月から12月に、産経新聞社が大学及び企業を対象に実施した「大学生の就職に関する意識と行動の変化と、新卒採用における取組みに関する調査」の結果が最近集計されましたので、その中から少し紹介します。

「職業人としての基本的な能力の低下」を感じるのは企業よりむしろ大学に多く、低下したと思える能力としては「年上と話ができない」「挨拶ができない」などコミュニケーション力を挙げ、企業は「粘り強さ」「主体性」を挙げています。「職業意識・職業観の未熟さ」については、「自立しようとする意識が希薄」「社会の中でやりたいことが見つからない」という点で大学側の半数が未熟さを感じており、企業側は面接時の「回答が短絡的、画一的」「自分の言葉で答えられない」といった場面から未熟さを感じているようです。

企業側は「安易に退職する」「成果があがらないうちに諦めてしまう」という現実から「働くことへの意欲の低下」を感じているようです。大学側は、「アルバイトやフリーターでもよい」「楽そうな仕事という観点で職を探している」など働くことの目的意識がもてない学生がいるとしています。大学が力を入れているキャリア教育として「職業観の醸成」「コミュニケーション力の育成」がありますが、「粘り強さ・ストレス耐性」は取組むのに困難な教育としています。企業が学生に求める能力として上位に挙げたのは、「粘り強さ・ストレス耐性」「コミュニケーション力」であり、大学が育成することが難しいと考えている力を求めています。また、大学に伸ばして欲しい能力として「課題発見・解決力」「論理的思考力」を挙げています。

さて、岐阜大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）には「豊かな人間性を支える基盤的能力」と「専門職業人として必要な専門的能力」を身に付けた人材の育成を掲げています。このアンケートに見られる大学や企業が求める力は、全て基盤的能力の中に含まれており、基盤的能力を培うことがたいへん重要です。学生の皆さんにはキャリアセンターを充分活用して自らのキャリア形成を発展させることを期待しています。また、教職員の皆さまには変わらずご指導のほどお願い致します。

キャリア形成支援事業「経営者が語る“働く”魅力講座」を終えて

岐阜県内には世界市場において高いシェアを占めていたり、他社ではなし得ないオンリーワンの技術を持つような特色ある中小企業が数多くあります。しかし、学生の皆さんの多くは、その存在や魅力を知らないことが多いのではないのでしょうか。こうした地元中小企業の経営者から、仕事や経営に対する思いとあわせて自らの生き立ち等について語っていただき、学生の皆さんが、中小企業の魅力を理解するとともに、“働く”魅力や意義について自らの認識や世界観を広げ、深めていただくことを目的とした講座、「経営者が語る“働く”魅力講座」を、経済産業省「産学協働教育を通じた中小企業の魅力発信事業」の支援を受けて、10月から12月まで全10回にわたり開催しました。単位修得には繋がらない非正課の講座であったにも関わらず、医学部を除く全学部からの参加があり、1年生から大学院2年生までの意欲ある15名の学生が受講してくれました。

講座の中でご講義いただいた経営者の皆さんは、「県内の日本有数の金型メーカー社長」、「県内の福祉施設・施設長」、「地域の陶磁器文化を活かしながら成長している企業の社長」、「地域の技術を活かしてオリジナル商品開発を行う刃物メーカー社長」、「インターネットショップで急成長を遂げている食品会社のネットショップ責任者」等と多彩なメンバーとなりました。

本講座では、企業への取材訪問も行われましたが、岐阜県商工労働部、NPO法人アスクネット、NPO法人G-net、岐阜放送の皆さんの協力を得て、受講生が取材の成果を活かして、企業紹介テレビ番組「ぎふビジネスフューチャー」の台本作成・編集・撮影協力等を行い、取材・コミュニケーション能力やそれをわかりやすく他者に伝えるシナリオライティング手法もあわせて学ぶことができました。ここで受講生たちが作成した企業の魅力紹介のコンテンツは、経済産業省主催「成長企業魅力発信グランプリ」の1次審査を通過し、東京品川グランドホールで開催されたグランプリ本選に出品され（平成24年3月6日）、「特別奨励賞」を受賞しました（コンテンツ作成者：三輪藍香さん<応用生物科学部3年>、大塚しおりさん<教育学部1年>、長谷川裕士さん<大学院工学研究科M2>）。参加した学生からは、「働くことの魅力、楽しさを感じることができた」、「これから就職活動が始まるが、それが楽しみになった」等の声が寄せられました。（益川副センター長）



「ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク構築事業」(「学生ボラネット」)の開始について

学生の自主活動支援の一環として、「学生が学外の様々なボランティア活動や地域活動に参加し、地域の人びとと共に活動することを通して、実践的な生きた知識や技能を学ぶとともに、その過程において豊かな人間性や社会性、課題解決能力を身に付け、自らのキャリア形成を積極的に進めることを支援する」ことを目的とする事業・「ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク構築事業」(「学生ボラネット」)を、内閣府・岐阜県の「新しい公共支援事業」の支援を受けて、開始しました。1月18日には、内閣府参与(当時)・湯浅誠氏を迎えて、キックオフ記念講演会を開催し、110名のみなさんにご参加いただきました。「学生ボラネット」では、NPO法人ぎふNPOセンター、岐阜県人づくり文化課と連携し、次の事業を主に行います。

- (1) ボランティア・地域活動の情報収集と発信
NPO、企業、地域団体、行政からの活動情報収集と学生への発信(メルマガによる)
- (2) 学生に対する相談窓口の設置、助言を行う専門相談員(メンター)の配置
コーディネート機能・相談窓口(キャリアセンター内)
毎週水曜日、木曜日 時間帯：9時から16時、メンター：石川美保さん
- (3) ボランティア・地域活動に対する学生への理解醸成
研修会、シンポジウム、活動報告会等の開催

ボランティア活動等にチャレンジしてみたいと思われた学生さんは、まず、所定の様式により(ないし、webページ<http://www.gifu-volunteer.net/>から)、メルマガに登録して、ボランティア情報を収集してください。そして、キャリアセンターの「メンター」に相談にのってもらいながら自分に合う活動を見つけます。活動計画書(所定様式)をキャリアセンターに提出し、いよいよボランティア活動に挑戦することになります。活動終了後は、活動報告書(所定様式)をキャリアセンターに提出していただきます。

ボランティア活動等には、また大学とは一味違った「出会い」・「気づき」、そして「学び」があることでしょう。そうした活動を通して、自分の地域で、そして社会や世界で起きていることに気づき、出会った人びとから色々なことを学び、考えさせられ、自らを改めて見直すきっかけとすることができるのではないのでしょうか。皆さんもその第一歩を踏み出してみませんか。(益川副センター長)



● 学生のボランティア活動 ●

白川町の棚田集落での学生と集落住民の交流活動について

今井 夕希

応用生物科学部生産環境科学課程
応用植物科学コース4年

私は、地元の岐阜県加茂郡白川町を対象として「中山間地域農業振興における集落営農の役割と課題」というテーマで卒業研究をさせていただきました。その中で、地理的条件不利により農地の規模拡大や機械の共同利用が困難な小規模・高齢化集落における農業の担い手として、学生ボランティアによる集落の農作業の支援が一つの手段となるのではないかと考え、岐阜県農政部農産園芸課、加茂農林事務所、白川町の協力のもと、試験的に2011年9月7日に「農作業ボランティア体験交流事業」として岐阜大学の学生有志14名と集落住民9名が参加して白川町下佐見室山集落の棚田にて、稲刈りを実施しました。当日は公民館に集合し、午前中に集落の方から鎌の使い方や稲束のり方等の指導を受けました。その後、集落の山で採れたキノコなどを使った郷土料理の昼食を食べ、午後は棚田で作業をしました。作業中は学生と集落の方が会話をしながら楽しそうに作業をしている姿が見られました。学生たちの頑張りもあって予定より早く作業が終了し、夕方から集落の方と地元の野菜や猪肉、鮎などでBBQをしながら親睦を深め、たくさんの意見交流ができました。今回の交流活動についての感想として、学生からは「とても楽しかった」、「またボランティアに参加したい」、「棚田の美しい風景で作業ができて心身のリフレッシュできた」といった意見が聞かれ、集落の方からは「学生が集落の農地の保全に関わることは良いと思う」、「また学生を受け入れたい」といった意見が聞かれました。また、今回の活動の成果として、この活動の準備等を通して集落住民が顔を合わせる機会が以前より増えたことが挙げられ、集落のまとまりの強化につながったと思います。加えて、高齢化が深刻化している集落に若い学生が訪れることで集落に活気が生まれ、住民の農業への意欲の向上のきっかけづくりができたのではないかと感じました。今後の課題としては、集落の要望に沿ったボランティア活動の提供をするための集落と学生の間での情報交換や調整と、継続的な活動のための学内への積極的な情報発信による参加学生の確保が必要であると考えます。今回のような取り組みは、学生が農村集落でのボランティア活動を通して、安定的な食糧生産と農業の多面的機能の発揮に大きく寄与している中山間地域への理解を深めるとともに、人と人とのつながりの大切さを学ぶ場を提供することとなり、学生のキャリア形成に大きく寄与することが期待されます。



作業風景

● 学生のボランティア活動 ●

緑化研究会 (three trees) の活動について

森本 恒

緑化研究会 (three trees) 部長

こんにちは。緑化研究会「three trees」です。

私達は岐阜大学構内の花壇作成を始めとした緑化活動と、ISO14001への取り組み、eco検定への取り組みの大きく分けて3つの活動、取り組みを行っています。

1つ目の緑化活動では、岐阜大学のバス停前、進入路、図書館前、第二食堂前にある花壇に植栽をしています。ちなみに、第二食堂前の花壇は、私達が企画から製作に携わって作り上げたものです。入学式や大学祭などの各行事に合わせて季節折々の花を植えています。また、昨年は岐阜県が企画した「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう！」の参加団体に選ばれ、本棟の西側壁面にゴーヤによる緑のカーテンを作成しました。来年度は施設環境部の方々に支援して頂き同場所に新しく花壇を製作すると共に、引き続きゴーヤによる緑のカーテンを作成していく予定です。

2つ目のISO14001の取り組みでは、岐阜大学で実施されているISO14001を元にした環境対策の内部監査を行いました。この取り組みを行うにあたって、統括環境管理責任者の長谷川先生にISO14001に関する講義を行って頂きました。また、私達は岐阜大学だけでなく十六銀行の内部監査にも参加しており、学内だけの活動に留まらず学外での活動へも積極的に取り組んでいます。

3つ目のeco検定への取り組みでは、昨年の春から私達はeco検定という環境問題に関する知識を問われる検定への挑戦を行っており、現段階では4名が合格しました。引き続き皆と一体となってこの検定への挑戦を続け合格者を増加させることで、環境問題をより身近に考えることのできるサークルとなることを目指しています。

これらの活動の中には先輩から引継いだ活動も多くあり、まだ私達は経験が浅い状態です。そのため、より良い活動の在り方を追求していくと同時に、これから入ってくる後輩達へこれらの活動を伝えていくことで当サークルの意識や知識、技術の向上を図り岐阜大学全体へ向けた緑化活動・環境活動の発信源となるようこれからも努力していきたいです。



大学バス停前の植栽



ゴーヤの緑のカーテンの前で

● キャリア形成の自主的活動 ●

学生企業展を終えて一取り組みから学んだこと

山崎友梨

岐阜大学学生企業展実行委員会

岐阜大学学生企業展は、「岐阜大学生による岐阜大学生のための合同企業説明会」です。2010年度で第10回という節目の時を迎えました。学生企業展実行委員は単年式であるため、毎年メンバーが変わります。そのため、2010年度は昨年度からのメンバーは2名であり、新規メンバーを11名加えた13名で活動を開始しました。私は見ず知らずのメンバーをまとめ、学生企業展という大舞台を成功させることができるのかという不安でいっぱいでした。

結果は、12月10日・11日の二日間に開催し、協力企業数156社、参加学生数1,145名と無事終わることができました。私や実行委員メンバーはこの活動を通して、多くの人と接することができ、その一つ一つは大変貴重な時間でした。多くの人事担当の方・講師の方・就職支援の方からは、企画の運営だけでなく、就職に関するアドバイスも頂きました。漠然としていた仕事についても学ぶことができました。そして私にとって実行委員メンバーと一緒に企画を運営したことは、自分を見つめ直し、成長させる機会となりました。実行委員のメンバーは皆、個性を持ち、自分から進んで考え行動する人達でした。意思を伝える力、分かりやすく話す力、場を和ます力など、各々が優れた力を持っていました。時には自分の力の及ばなさに落ち込んだり悩んだりしましたが、メンバーと一緒に考えあひ、作業に奮闘することで切磋琢磨でき、皆とよりよい学生企業展にするために取り組みました。そして協力して取り組み、成功させることの達成感を学ぶことができました。それは辛く大変な時間でしたが、その反面、楽しく有意義な時間であり、あつという間の出来事でした。

私は岐阜大学学生企業展実行委員の活動を通して、個性豊かな尊敬できるメンバーと出逢うことができ、多くの素敵な企業様と出逢うことができました。このつながりを大切に、今後出逢うだろう人々との出逢いを大切に、社会で活躍したいです。そして、日々考え、日々学び、自分自身を成長させて行きたいと思います。



学生企業展の様子

● 学部における就職・キャリア形成支援の取り組み ●

教育学部

原田 憲一

教育学部就職対策委員長



集団面接指導

教育学部は、学校教員養成課程と特別支援学校教員養成で構成され、学校教員の養成を目的とした学部です。学校教員として、幅広い教養と高い専門的能力を持ち、実践的な力量を備えた教育を行う専門家を育成しています。それが教育目標ですから、カリキュラムは教員の資質である知識や技能を習得するとともに、教員免許状取得に必要な教職や教科等の専門科目で構成されています。教育学部の授業や教育全体が、教育職者のキャリア形成であると言っていいでしょう。

本学のカリキュラムの特徴として、全学年で実際に学校現場に出向いて体験学習するACT (Active Collaboration Teaching) プランという実習科目を実施しています。1年生の「教職トライアル」は、教師・生徒・児童・教育活動の実際を先生の立場から観察します。2年生の「教職リサーチ」は市内の小・中学校にそれぞれ1週間毎日出向き、部分的な教育活動に参加しながら教育の方法・技術・教材を学びます。3年生の「教職プラクティス」は、小・中学校ごとに4週間の教育実習で、授業の教材研究や準備等を行い、実際に授業を行い実践的な教育活動の基礎を習得します。4年生の「教職インターン」は、学校における様々な教育活動を手伝うことによって、教師の資質能力を高めます。

授業外でのキャリア支援は、進路相談室を設け、教職への就職活動及び実習等の支援を目的として教育指導担当講師2名が指導にあたっています。学部全体での主な支援活動は、3年生では、学校教員採用選考試験に向けて就職ガイダンス、4年生の体験報告会や教育講演会等を行っています。さらに指導要領の解説等の講義も行っています。4年生では、学校教員採用試験の説明会を岐阜県等の教育委員会から来て頂いて実施しています。採用試験のための集団面接指導、さらに二次試験に向けて個人面接・集団討議・プレゼンテーションの指導や実技指導も行っています。進路支援室及びACT支援室では、随時担当講師が個々の就職やキャリア形成の相談に対応し、支援・指導出来る体制をとっています。学生の利用も多く、個別指導の効果も上がって来ています。

● キャリアセンター 学生サポーターの募集 ●

あなたも自らのキャリア形成を実現しながら、キャリアセンターの活動をサポートしてみませんか。キャリアセンターは、学生のキャリア形成や就職活動を支援しながら、ともに行動し、社会や企業、地域、職業について、体験し、考え、学び、そして発信します。

具体的には、企業アンケートやヒヤリングなどを行い、「生き活きと働くこと」「就活に役立つ資料」を協同して作成することなどを計画しています。

◆募集対象：学年・学部を問わず、キャリア形成に関心のある学生・院生

◆募集期間：第1次募集 2012年4月10日～5月20日

(第2次募集 就職内定者を対象として7月頃に予定)

◆応募と問い合わせ：キャリアセンターに応募紙が置いてありますので、必要事項を記入して、当所に提出してください。

● 「先輩社会人アドバイザー」登録を進めています ●

キャリアセンターでは、学生のキャリア形成及び就職活動を支援するために「先輩社会人アドバイザー事業」を企画し、「先輩社会人」へのアンケートの実施と登録を、岐阜大学の同窓会等のご協力をいただきお願いしています。「先輩社会人」の貴重な就職・社会経験は、とりわけ在校生と世代の近い20歳台後半の先輩から体験に基づいたアドバイスを得ることは、学生が働くことを理解し社会生活を意欲的に考えていくうえで、特に大きな効果が期待されます。今後「先輩社会人」には、講演や懇談会、寄稿など様々な形で協力をお願いする予定です。

キャリアセンターニュース編集委員

委員長 佐々木実 (キャリアセンター長) 委員 今井 健 (キャリアセンター特任教授)
委員 酒光伸嘉 (課長補佐・就職支援室長) 委員 藪田 薫 (キャリアセンター参与)

● 岐阜大学キャリアセンター ●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリアセンター

TEL 058-293-3393

career@gifu-u.ac.jp

就職支援室

TEL 058-293-2147・3362

job@gifu-u.ac.jp